

地方部への移住者にみる地域の魅力と移住支援の取り組み～福島県小野町を事例として～

国土技術政策総合研究所 正会員 ○大橋 幸子
 国土技術政策総合研究所 正会員 湯原 麻子

1. はじめに

国民の価値観の多様化に伴い、多様な働き方、住まい方が可能な社会が求められている。本研究では、地方部への移住行動に着目し、福島県小野町に実際に移住した人へのインタビューにより、地域の魅力について調査した。本稿では、調査結果のうち、移住先の魅力に関する特徴的な意見に関してとりまとめた。

2. 対象地域の概要

(1) 地理的特性

小野町は阿武隈山系の中中部、福島県田村郡の南部に位置し、四方を山々に囲まれている比較的緩やかな丘陵地帯である。福島空港、東北新幹線、磐越自動車道、福島空港アクセス道路「あぶくま高原道路」などの高速交通体系の整備進展により、全国特に関東方面からのアクセスは向上している。平成17年10月から高速バスの乗り入れが開始し、福島県内の主要都市、仙台市との往来に利用されている。福島空港より車で約30分、東北新幹線を利用すると、郡山駅より磐越東線で約50分、または郡山駅より車で約45分である。磐越自動車道を利用すると、三郷JCTより約2時間15分（磐越道経由）、または川口JCTより約2時間40分（東北道経由）である。



図1 小野町位置図(福島県ふるさと暮らし支援センターHPより)

(2) 社会特性

人口は、昭和35年の17,441人から平成22年の11,202人まで減少傾向が続いている。高齢化率は、昭和45年の6.0%から平成17年度に26.5%まで増加傾向が続いている。

3. 対象地域における移住の取り組みと経緯

小野町では、移住、定住に加え、二地域居住に関する取り組みも行われており、「笑顔とがんばり！小野町定住・二地域居住推進事業」として、以下の事業がおこなわれている。

表1 移住、定住、二地域居住の支援事業

| 事業名 | 時期 | 内容 |
|-------------------|--------|--|
| 町有林おすそわけ事業 | 平成19年～ | 町内に定住する意思のあるU I ターン者で、町内業者により新築住宅を取得しようとしている方に、町有林から製材された建築資材を贈呈 |
| ようこそ小野町定住祝金交付事業 | 平成19年～ | 町内に定住する意思のあるU I ターン者で、住宅を取得して転入された方に、定住祝金として商品券を交付 |
| E T C ・らくらく通勤応援事業 | 平成19年～ | 町内に定住する意思のあるU I ターン者で、転入により遠距離通勤となる方に、E T C の購入・設置費用を助成 |
| ふれあい農家民宿開設応援事業 | 平成19年～ | 町内で農家民宿を開設しようとしている方に、資金面の援助 |
| ふるさと暮らし応援事業 | 平成19年～ | ふるさと暮らしを始めようとしている人たちへの橋渡しをするボランティア組織を支援 |
| 夢のある農業後継者育成推進事業 | 平成10年～ | 新規就農支援。U ターン者が本格的な農業に取り組む場合に、支援金を交付 |
| 空き家情報の収集・提供 | 平成16年～ | 空き家の売却・賃貸可能な物件の情報を収集し、情報提供 |
| 田舎暮らし体験ツアー | 平成20年～ | 田舎暮らし希望者を対象に、小野町における体験ツアー |
| ふるさと暮らしセミナー | 平成19年～ | 田舎暮らし希望者を対象に、東京において小野町の暮らしを紹介 |

キーワード 移住、定住、二地域居住、UJI ターン、意識調査

連絡先 〒305-0804 茨城県つくば市旭1番地

国土技術政策総合研究所総合技術政策研究センター建設経済研究室 TEL 029-864-0932

4. 結果

(1) インタビュー調査の実施

小野町役場ならびに関係団体の協力により、実際に移住した方6名にインタビュー調査を行った。調査時期は、平成22年11月である。インタビューにおける調査項目を表2に示す。移住後の居住年数は、5年以内、6～10年、11年以上がそれぞれ2名ずつであった。

(2) 特徴的な意見

調査項目のうち、移住関連のインタビュー結果について、「移住の目的」「他地域との比較」「二地域居住」に関して特徴的な意見を表3に示す。

表2 調査項目

| | |
|------|--|
| 属性 | 性別、年齢、職業、移住時期、移住時の年齢、居住地（移住前後）、自動車の運転の可否 |
| 移住関連 | ・移住の理由（目的・きっかけ） ・移住先（現在地）の魅力 ・移住先候補として検討した他地域の有無 |
| 生活環境 | ・生活を営む上で重要だと考えている価値観（移住検討前、検討中、移住後） ・生活環境として必須と考える施設（移住前・現在） ・施設までのアクセスの許容時間 |

表3 インタビューにおける特徴的な意見

| 分類 | 特徴的な意見 |
|---------|--|
| 移住の目的 | <ul style="list-style-type: none"> ・ある人の自然農法に感銘を受け、そのような農業がやりたくて移住した。 ・物質やお金より、自給自足で楽に暮らしたいと思うようになった。 ・食の安全に興味があり、自分で作るしかないと思うようになり農業にたどり着いた。 ・田舎暮らしにあこがれていた。 |
| 他地域との比較 | <ul style="list-style-type: none"> ・東京から遠くないところで検討していた。いろいろ探していたが、どこに行ってもイメージと合わず、なかなかいいところが見つからなかった。雑誌に掲載されていた物件を見て決めた。 ・東京から比較的近く、関東でない場所を探した。たまたま縁あって紹介された物件のあった小野町に決めた。 ・他地域も検討していたが、物件のあった小野町にした。 ・農地を紹介してもらえたため、農地を決めて住むところを決めた。 |
| 二地域居住 | <ul style="list-style-type: none"> ・家族が首都圏を拠点に仕事をしているため、1年の半分ほどはそちらで暮らしている。 ・家族は親族の介護のため首都圏に住んでおり、年4～5回そちらへ行っている。 ・都会に住んでいると自然がほしい、田舎にいと都会の便利さが恋しくなる。孫の顔を見に首都圏と行き来している。 |

インタビュー結果から、小野町への移住において特徴的な事項を以下にまとめる。

- ・自給自足等で農業に関わる生活を理想とし、その実現に近づくことを移住の目的とした人が多い。
- ・他地域と比較したうえで、農地、住居等の物件が取得可能であったことから、小野町に移住した人が多い。
- ・関東圏からの移住が多く、二地域居住により家族とのつながり、家族内での役割を維持している人もいる。

このように、田舎暮らしへの憧れをもつ人が、農地・住居を取得できること、また二地域居住により家族の事情に対応できることから、小野町においてその実現を図ったケースが多かった。

5. おわりに

今後、我が国における多様な暮らし方を考えるならば、二地域居住を取り巻く環境の充実など、地方部における新たな暮らし方の実現への選択肢を拡充させることが考えられる。そのために、本稿で取り上げた小野町のような事例調査などから、移住への抵抗となる課題やその解決に向けた社会資本整備の役割等を検討したい。

なお、本調査は東日本大震災前に実施したものである。現在小野町では、引き続き移住定住支援に取り組みつつ、町内の被災者支援と復興、また原発事故に関連する避難者の受入と支援に積極的に取り組んでいる。

謝辞

本調査の実施にあたっては、福島県小野町役場企画商工課、小野町ふるさと暮らし支援センター事務局にご協力をいただきました。また、小野町に移住されたインタビュー回答者の方には、快く調査にご協力をいただきました。ここに深く感謝の意を表します。

参考文献

大橋他：地方部への移住者の価値観の特徴に関する研究，土木学会論文集F4 特集号，Vol. 67，No. 4，2011.12
 大橋他：地方部への移住者の意識にみる地域の魅力に関する調査，土木計画学研究・講演集，Vol. 44，2011.11